

03 森林分野での J-クレジット制度の活用が広がっています

J-クレジット制度は、省エネ設備の導入や森林経営などの取組（プロジェクト）による、温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。林業経営者にとっては、認証されたクレジットを販売することで新たな収入源を得ることができるほか、排出事業者にとっては、「グリーントランスフォーメーション（GX）」の実現に向けた取組の加速化が求められるため、売り手・買い手ともに、同制度への関心が高まっています。

森林由来クレジットの現状

森林プロジェクトの場合、間伐等の施業や保護のための活動を行った森林のCO₂吸収量についてクレジット認証を受けることができます。森林由来クレジットの認証量は拡大傾向にあり、2022年度は初めて5万トンを上回りました。近年は、登録時の認証見込量が1件あたり10万トン以上の大規模プロジェクトも増加しており、今後はさらなる認証量の増大が期待されます。

制度の普及に向けて

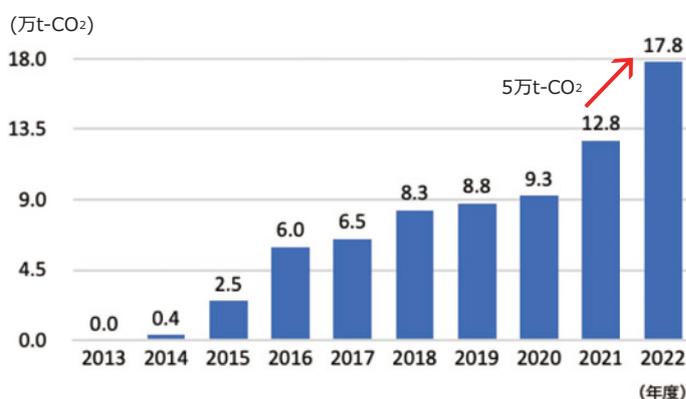
森林・林業関係者がJ-クレジットへ参加するために、登録時の要件やクレジット認証時の手続きの複雑さなどが課題となっていました。このため、2021～2022年にかけて、モニタリング手続きの簡素化や、主伐・再造林を計画する場合にもプロジェクト登録を行いやすくする制度見直し等を行いました。

また、林野庁では今年3月に、クレジット創出・活用に関心がある方に向けたセミナーを開催するとともに、手続きや活用のポイントをまとめたハンドブックを作成・公表しました。セミナーの資料やハンドブックは、林野庁ホームページから御覧いただけますので、ぜひ、これらの資料を参考にして、クレジットの創出・活用を積極的にご検討ください。

林野庁 HP

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/J-credit.html

森林経営活動クレジット認証量の推移
(2023年3月末までの累計)



森林由来J-クレジット 創出者向けハンドブック

Ver.1.0 (2023.3.31)

- 森林管理プロジェクトに参加するには？
- 方法論FO-001森林経営活動とは？
- 吸収量の算定とモニタリングにはどんな方法がある？
- クレジットの販売と活用のヒントが知りたい

林野庁